



一般社団法人
日本建築学会

建 築 文 化 週 間 2021

トウキョウ 建築まち歩き

上野・谷中



<http://bunka.aij.or.jp/machiaruki/>

上野の杜と谷中周遊

今回歩く上野の杜（上野恩賜公園）とその北側の上野桜木、谷中は、北側から伸びる上野台地（武蔵野台地の一部）の南端部にあたります。西側は不忍池を挟んで東大キャンパスが広がる本郷台地の高台、東側は下谷の低地が広がります。

江戸の風景

上野の杜の風景には、時代の痕跡を残す多くの建物がありますが、中でも創建年が明確な最古のものが「清水観音堂」（寛永寺清水観音堂、1631/寛永8年）です。広重の浮世絵「名所江戸百景」の中の「上野清水堂不忍ノ池」（1856/安政3年刊行）には、満開の桜に囲まれた清水観音堂の舞台から、不忍池を眺める人びとと、枝が円を描く「月の松」が描かれています。以前は生い茂った樹木で見えなかったのですが、現在は既存植生に戻す形で樹木が整理され、清水観音堂から不忍池に浮かぶ辯天堂へのビスタが確保されました。そして明治初期の台風により失われていた「月の松」も復元（2012/平成24年）されています。

清水観音堂は、かつて上野の杜に巨大な伽藍を構えていた寛永寺の建物のひとつです。寛永寺は山号を東叡山と号し、江戸城の鬼門（北東）を守るものとして、天台宗の僧、天海（慈眼大師）により江戸初期（1625/寛永2年）に開創されました。東叡山という山号は、京都を守護する比叡山延暦寺に対して東の比叡山を意味します。寛永寺の常行堂、法華堂などの主要な建物は1627（寛永4）年の1年間で建設されています。そこから3年遅れて不忍池の辯天堂が、さらにその翌年に清水観音堂が建立されます。江戸を守るための寛永寺の諸堂に対して、この2堂は庶民がお参りできるお堂としてつくられたといわれています。清水観音堂の舞台は、その名の通り京都の清水寺に倣ったものであり、不忍池の辯天堂は琵琶湖に浮かぶ竹生島の宝厳寺を見立てたものとのことです。

清水観音堂は当初、現在の場所から少し北側の摺鉢山古墳に建てられていましたが、1698（元禄11）年に、寛永寺の根本中堂が現在の大噴水の辺りに建てられる際に移築されました。移築に際しては辯天堂からの軸線が意識されたのだと思われます。

1868（明治元）年、彰義隊と官軍の上野戦争で、寛永寺の建物はそのほとんどが失われました。現在残る江戸期の建物は、清水観音堂のほか、五重塔（旧

寛永寺五重塔、1639/寛永16年）と上野東照宮（東照宮社殿、1651/慶安4年）があり、いずれも江戸前期のもので重要文化財に指定されています。

上野の杜の建物を年表にプロットしてみると、元禄から明治が始まるまでの170年間はほとんど空白です。広重の浮世絵が描かれた安政のころからも160年。この間には変わらぬ風景が保たれ、江戸のまちの人びとが訪れる名所であり続けたのだといえるでしょう。

明治の上野の杜

明治以降、寛永寺の敷地の大部分は公園となり、幾度も博覧会会場に利用されたほか、文化・教育施設がつくられ、人びとが集う場所であり続けます。1877（明治10）年には、寛永寺本坊跡に建てられた煉瓦造の美術館（現存せず）を中心に第1回内国勸業博覧会を開催。1882（明治15）年には、コンドル設計の「上野博物館」（現存せず）が開館し、附属施設として動物園が開園します。この時期、不忍池畔で競馬が開催され（1885/明治18年）、夜桜見物ができる電気灯（1887/明治20年）が点されました。堀口捨己が不忍池畔にパビリオンを設計したのも、1922（大正11）年に開催された平和記念東京博覧会でした。

現在に残る明治期の建物は、1890（明治23）年に日本初の音楽専用オーディトリウムとして建設された「旧東京音楽学校奏楽堂」（設計：山口半六・久留正道、1987/昭和62年に移築保存）、1906（明治39）年に未完のまま正面のない建築として落成した「帝国図書館」（設計：久留正道・真水英夫・岡田時太郎、2002/平成14年から国際子ども図書館）、東京国立博物館の「表慶館」（1908/明治41年、設計：片山東熊）があります。

昭和・平成・令和の上野の杜

戦前戦中期の上野の杜を代表する建築は、1938（昭和13）年の「東京帝室博物館本館」（東京国立博物館本館）でしょう。関東大震災からの復興ということで復興本館と呼ばれていました。瓦葺きの屋根を載せる「帝冠様式」と否定的に捉えられているスタイルの中では最も巧みなデザインで、江戸の寛永寺以来の明確な軸線の上に、静けさと威厳をたたえています。正門を入ると正面にこの本館、左に新古典主義の「表慶館」、右に「東洋館」（1968/昭和43年、設計：谷口吉郎）と30年の時を隔てた見るべき建築に囲まれます。表慶館の奥



国土地理院 地理院地図アナグリフ(カラー)

にある法隆寺宝物館（1999/平成11年、設計：谷口吉生）も見逃せません。

「国立西洋美術館」（1959/昭和34、設計：ル・コルビュジェ）、「東京文化会館」（1961/昭和36年、設計：前川國男）、「東京都美術館」（1975/昭和50年、設計：前川國男）ができ、さらには、「旧東京音楽学校奏楽堂」の移築（1987/昭和62年）、旧帝国図書館の「国際子ども図書館」（2002/平成14年、設計：安藤忠雄・日建設計）へのリノベーションが完了すると、上野の杜の風景の骨格はほぼ固まりました。その後もさまざまな修景が行われていますが、中でも重要なのは、最近行われたJR上野駅公園口駅舎の建て替えと駅前の再整備です。公園口前の道路を一部廃止して広場としたことで、歩行者空間が上野駅に直接接続されました。さらにその正面に駅入口が移設され、改札を出ると目の前に公園への軸線が開くようになったのです。軸線を受け止める上野動物園の表門は現在工事中です。

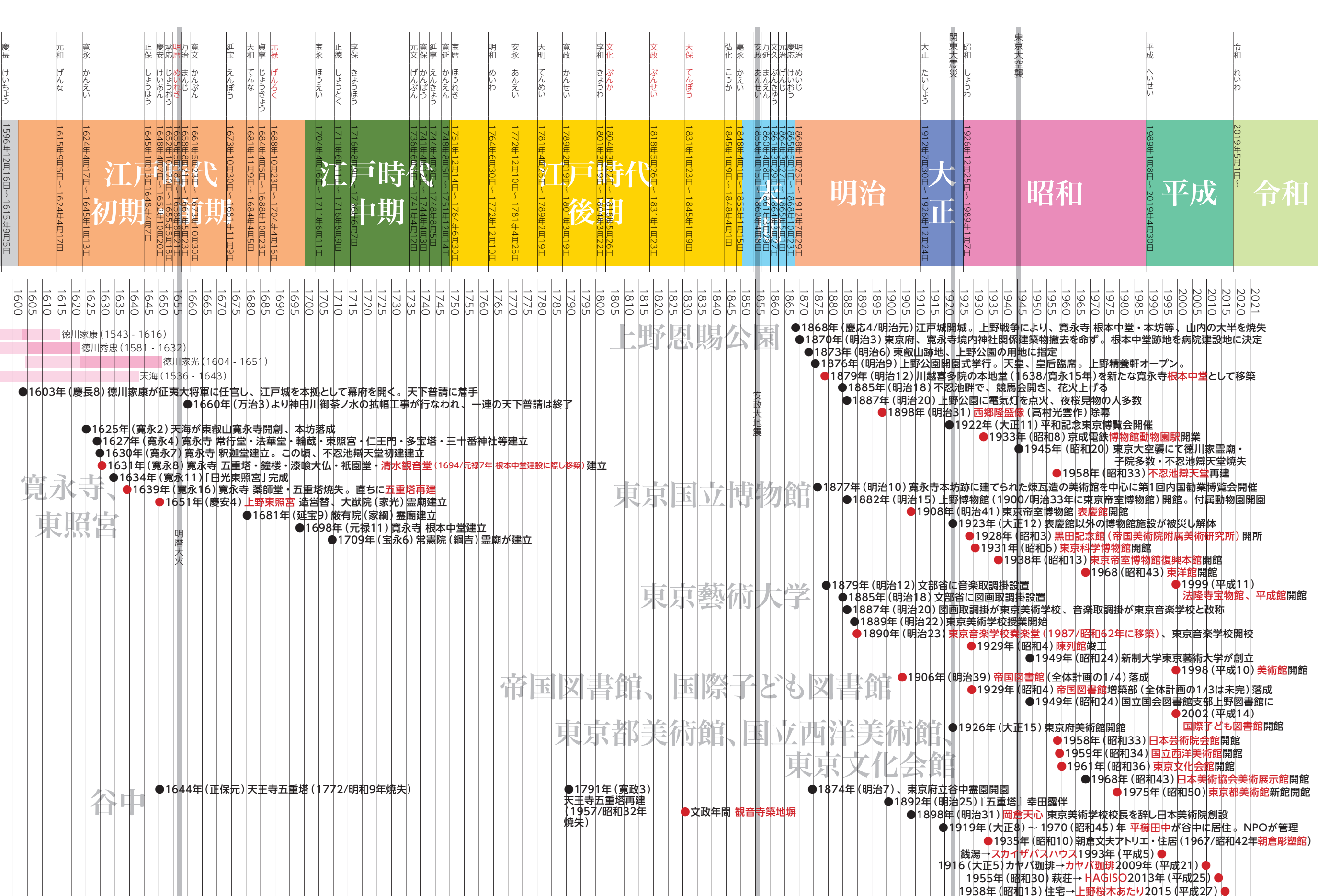
谷中

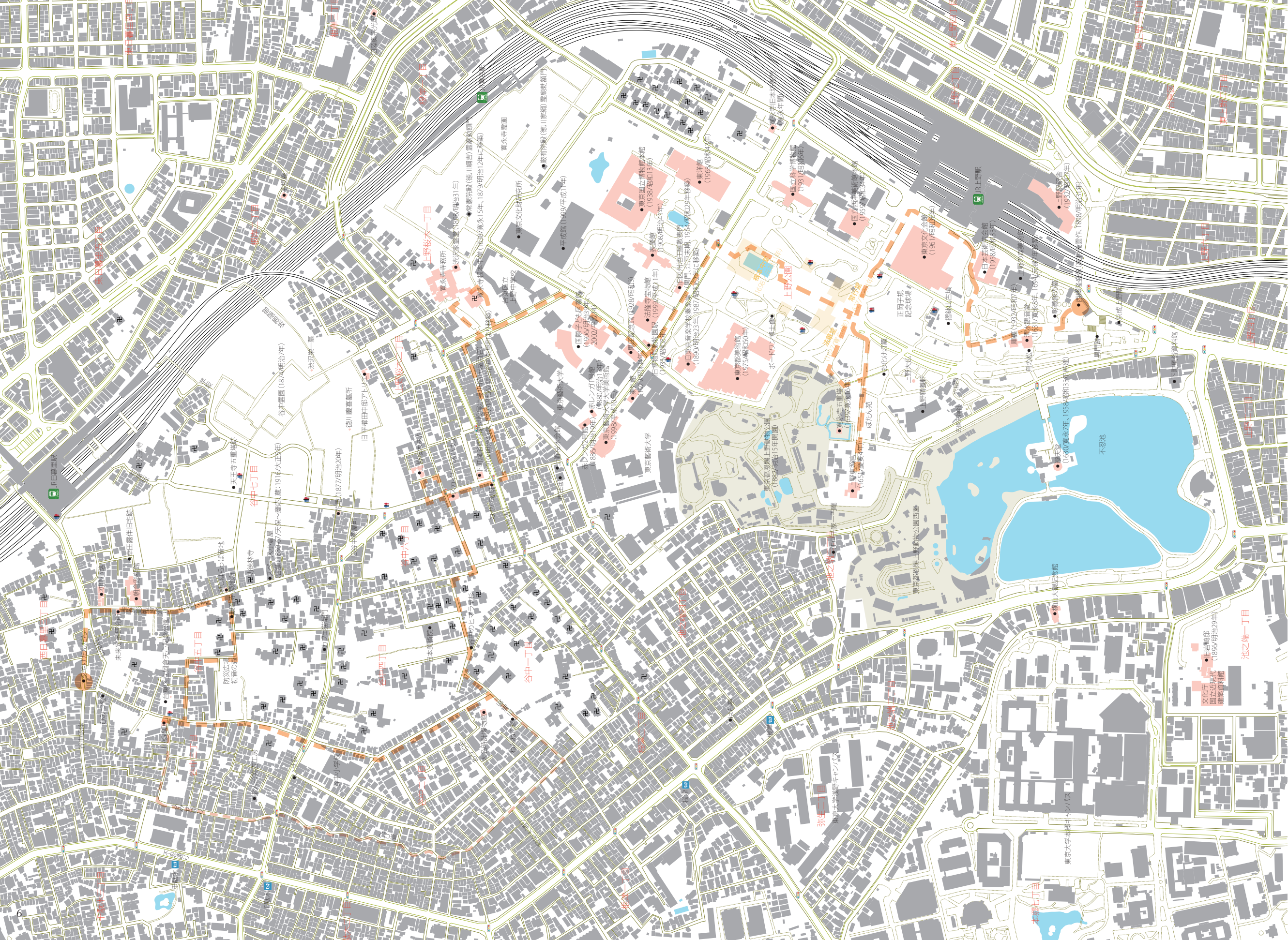
上野の杜の北側は上野桜木、その先が谷中です。谷中は上野台地の尾根部と、現在は暗渠となっている藍染川が流れていた下町の低地からなります。上野

桜木から谷中の高台は、江戸期には寛永寺の寺領が広がり、現在も寺院やその墓所が多く存在しています。谷中霊園を突っ切る桜並木は、かつては天王寺の参道で、その途中に幸田露伴（1867-1947）の小説『五重塔』（1892/明治25）のモデルとなった五重塔（1791/寛政3、1957/昭和32焼失）が建っていました。

谷中には、東京美術学校（東京藝術大学）初代校長の岡倉天心（1863-1913）が創設した日本美術院があり、東京藝術大学で教えた平櫛田中（1872-1979）や朝倉文夫（1883-1964）がアトリエを構え、下谷に生まれた幸田露伴も『五重塔』執筆中に住んでいました。

この地域は関東大震災や第二次世界大戦の空襲の被害も少なく、明治から昭和初期の建物やまちなみが残されています。平成になると、それをまちの資産として活用する新しいまちづくりが興ってきました。銭湯をモダンアートのギャラリーとした「スカイザバスハウス」（1993/平成5年）、閉店した喫茶店の再興「カヤバ珈琲」（2009/平成21年）、木賃アパートを文化複合施設とした「HAGISO」（2013/平成25年）、戦前の木造住宅3棟を商業コンプレックスにした「上野桜木あたり」（2015/平成27年）などがつくられ、魅力的なまちなみが生まれています。





A row of ornate stone pillars in a park, featuring decorative capitals and bases, with trees in the background.

A photograph of the Chōkoku-ji Pagoda, a multi-tiered wooden structure with a green tiled roof and a tall spire, viewed through bare trees. In the foreground, there are stone lanterns and a fence.

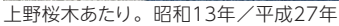
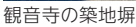
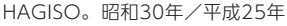
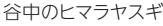
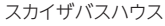
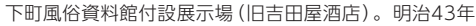
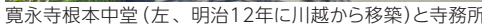
A bronze statue of a man in a kimono standing on a pedestal, surrounded by lush green trees. Two people are visible in the foreground, looking at the statue.

A photograph of a brick building entrance. The central feature is a large arched doorway with a dark wooden door. Above the door is a semi-circular transom window. The arch is flanked by two windows: a tall, narrow one on the left and a wider one on the right. The building is constructed of light-colored bricks. There are decorative elements like a small balcony or ledge above the arch and a small bench or planter box in front of the door.

This map provides a comprehensive overview of Ueno Park and its vicinity. Key locations and their dates are as follows:

- 市田邸** (1907/明治40年)
- 上野桜木会館**
- 東京藝術大学**
- 赤レンガ2号館** (1886/明治19年)
- 赤レンガ1号館** (1880/明治13年)
- 東京藝術大学大学美術館** (1998/平成10年)
- 議国院社**
- 陳列館** (1929/昭和4年)
- 黒田記念館** (1928/昭和3年)
- 旧博物館動物園駅** (1933/昭和8年)
- 法隆寺宝物館** (1999/平成11年)
- 表慶館** (1908/明治41年)
- 東京国立博物館本館** (1938/昭和13年)
- 旧因州池田屋敷表門** (黒門、江戸末期、1954/昭和29年移築)
- 旧東京音楽学校奏楽堂** (1890/明治23年、1987/昭和62年に移築)
- 東洋館** (1968/昭和43年)
- 東京都美術館** (1975/昭和50年)
- 恩賜上野動物園(東園)** (1882/明治15年開園)
- ボードワン博士像**
- 上野公園**
- 国立科学博物館** (1931/昭和6年)
- 国立西洋美術館本館** (1959/昭和34年)
- 東京文化会館** (1961/昭和36年)
- 日本芸術院会館** (1958/昭和33年)
- 上野の森美術館**
- 上野駅駅舎** (1932/昭和7年)
- 西郷隆盛像** (高村光雲作、1898/明治31年)
- 黒門跡**
- 京成上野駅**
- 月之松**
- 清水観音堂** (1631/寛永8年、1694/元禄7年移築)
- 彰義隊の墓**
- 天海僧正毛髮塔**
- 庫裏** (1932/昭和7年)
- 辯天堂** (1630/寛永7年、1958/昭和33年再建)
- 五條天神社**
- 上野大仏**
- 上野精養軒**
- 韻松亭**
- お化け灯籠**
- 伊豆米**
- ぼたん苑**
- 上野東照宮** (1651/慶安4年)
- 寛永寺五重塔** (1639/寛永16年)
- 法華堂** (1627/寛永4年)
- 常行堂** (1627/寛永4年)
- 根本中堂** (1698/元禄11年)
- 恩賜上野動物園(西園)**
- 不忍池**

A scale bar at the bottom left indicates a distance of 100 meters.





ナビゲーター：大森 晃彦（建築メディア研究所代表、東京理科大学非常勤講師）

発行 日本建築学会 建築文化事業委員会

発行日 2021 年 10 月 9 日

© 日本建築学会 建築文化事業委員会 2021

不許複製

建築文化週間 2021

主催 日本建築学会

後援 日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会

協賛 大林組、鹿島、清水建設、大成建設、竹中工務店、東京メトロ、日建設計、日新工業、日本設計、
三菱地所設計、NTT ファシリティーズ